

A CITY ニュース

https://www.com-net2.city.hiroshima.jp/acity/ 第182号 2023.1.10 発行
A. CITYヒルズ&タワーズ管理組合・A. CITY自治会広報

新年のご挨拶



自治会 会長
野籾 幸子

あけましておめでとございます。皆様におかれましては、お健やかな新年をお迎えになられたことお慶び申し上げます。

コロナ禍の3年間はいろいろな制約が多く、行事も思うように行うことができませんでしたが、昨秋には3年ぶりのA. CITY文化祭を開催し、たくさんの方々に楽しんでいただき、この日を皆様が待っておられたのだと実感した1日となりました。今年もいろいろと注意をしながら行事のあり方を考え、実行してまいりたいと思います。

さて令和5年は「癸・卯（みずのと）」の年。今までの努力が実を結び、勢いよく成長し飛躍する年と言われるております。防災や防犯、見守り活動、そして住民交流を通して賑わいづくりに取り組む所存です。

今年5月には、先進7カ国首脳会議も広島で開催されます。物価高や世界情勢など、気になる年明けでは

ありますが、A. CITY自治会ではしっかりと足下を見つめて、安全で住みやすい街であり続けられるよう役員一同頑張つてまいりますので皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

うさぎの年が皆様にとって希望あふれる年になりますよう祈念いたします。年初のご挨拶とさせていただきます。



新年の彩り

イースト住区のお正月飾り

イースト住区1階・エントランスロビーに、今年もお正月飾りがお目見えしました。今年で19年目になるイーストのお正月飾り。広いロビーを持つイースト住区ならではの、お正月の風物詩になっています。

当時の住区長が、マンションにもお正月の風情を、と始めたアイデアが、こんなに長く引き継がれているのは心温まります。来年も楽しみにしています。製作に関わってくださった皆様、あり



がとうございました。



大雪時の車両走行にご注意ください

ご注意ください

昨年末に来襲したクリスマス寒波は、A. CITYにも15cm以上の積雪をもたらし、高速道路や国道2号線の一部も通行止めになるほどの影響がでました。ここ数年で、大塚交差点から西風新都1Cへの車両の流入は増加の一途をたっており、高速4号線出口からA. CITYまでの西風新都中央線は、急勾配なことも重なって、交通障害の出やすい環境となっております。積雪が予想される日は、不要不急の外出を避けるなどの対応を各自で心がけましょう。



A. CITYの行事予定

- | | | | |
|----------|-----------|----------|-----------|
| 1月14日(土) | 有価資源ごみ回収日 | 1月28日(土) | 有価資源ごみ回収日 |
| 1月15日(日) | 自治会定例役員会 | 2月11日(土) | 有価資源ごみ回収日 |



初・企業とのタイアップ企画

3コースの防災訓練実施

令和4年12月11日(日)に、A. C. CITY防災訓練が行われました。

A. C. CITYの防災訓練は、4年ほど前から地域の防災士が中心となって企画を練り、管理組合と自治会が協働して運営しています。

年2回の開催が決まっているので、いつも同じような内容での単調な訓練にならないことや、お子さまでも楽しめること、防災についての知識や知見が深まることを軸にしながら、訓練内容を検討しています。



↑訓練内容を検討する防災士

今回は、訓練内容を3つのコースに分け、参加者が好きなコースを選んでいただけるようコンテンツを準備しました。内容は以下のとおりです。

1. 防災士による防災講話
2. 防災ワークショップ
3. 防災ウォークラリー

防災講話は、A. C. CITYで実際に起こった災害や、近年増加している猪や猿などの害獣被害をとりあげて、その被害住区に実際に住んでいる防災士が講話を行いました。外の地域から派遣される講師とは違い、なじみのある場所や建物の被害の様子を住民が説明し、対応策を発表する様子は、出前講座とは当事者意識がまるで違います。自分の住居以外の住区で起こった災害には意外に疎いこともあり、3名の防災士による講話を参加者は熱心に聞き入っていました。



↑住民防災士による講話の様子

防災ワークショップは、基本的に小学生以下の子どもたちを対象に設け、今回初めて企業とタイアップを試みました。野村不動産(株)西日本支社スタマサービス様に小学生以下のお子様でも楽しんでもらえるようなワークショップを依頼したところ、新聞紙で作る防災スリッパと簡単な防災クイズのコーナーが小ホールにできあがりました。

参加した子どもたちは、自分でつくった防災スリッパを履いてご満悦です。会場内にある瓦礫の道をイメージした足つぼマットの上を、新聞スリッパで実際に歩き、その感触を確かめていました。お子さま向けのコーナーにも関わらず、大人も熱心に製作する様子が見受けられました。



↑新聞スリッパ製作と実際に歩行する様子

防災ウォークラリーは、A. C. CITY内の土砂災害警戒区域や、害獣被害の場所など力所のチェックポイントを設け、実際にその場所に行くと、被害状況や今までの災害履歴を確認したり、AEDの設置場所や避難施設を見学する内容です。こちらも住民防災士が引率し、チェックポイントごとにそのポイントにちなんだ防災クイズが出題されました。

地域の見守り活動を続けて20年近くになる防災士が通学路の危険箇所を紹介したり、イースト住区に住んでいる防災士が災害時の高層エレベーターの仕組みと操作を案内したりと、普段の暮らしからの視点による説明があり説得力も抜群です。

また野村不動産パートナーズ(株)様の全面協力で、普段は入ることのできないタワーズイーストの屋上や、アーバンI番館の裏で実際に法面が崩れた跡を見学し、参加者は大盛り上がり。スマートフォンで地上100メートルの景色を撮影したり、記念撮影を行ったりと1時間ほどのラリーを楽しみました。

A. C. CITYでは、住民による自発的な防災訓練をこれからも企画していきたいと思っていますので、皆さん、ぜひ参加してみてくださいね。



↑防災ウォークラリーの様子

子ども会・クリスマスツリーの飾り付け

クリスマスを抑えた12月3日(土)に、Aシティ子ども会はクリスマスツリーの飾り付けを行いました。

A.CITYプラザとタワーズイーストに分かれて、それぞれでクリスマスツリーを組み立て、たくさんのおーナメントやモールを飾り付けました。子どもたちは大好きなクリスマスツリーに大興奮！

さらに、A.CITY自治会の皆様とタワーズイースト住区の皆様にもサポートしていただいたおかげで、あっという間に終わり、素敵なクリスマスツリーを2台設置することができました。ありがとうございました。

クリスマス当日までワクワク待ちわびていた子どもたちのもとには、きつとサンタクロースが来たことでしょうか♪



A.CITY防災士で年末パトロール実施

広島高速4号線の大渋滞を引き起こしたクリスマス寒波による雪が残る中、年末恒例の町内防犯パトロールを実施しました。

昨年同様、今回も防災士のメンバー(12名)が集まり、管理センターを出発して、タワーズイースト、メリィハウス、ペダストリアンデッキを経由してヒルズ側の各住区を見回りました。

大塚小学校区で不審者情報も確認されていることや、雪による交通障害など、防災士同士で近隣の関連情報を共有しながら危険箇所等の確認を行いました。

皆さんも、日頃の生活で「ここは危険だな」と不安を感じる箇所があれば管理センターまでお知らせ下さい。



A.CITY新・防災士紹介

あらたに防災士になられた方を順次ご紹介します。



アリーナ住区
島 和之
(敬称略)

冬季の機械式駐車場 使用にはご注意ください

降雪の季節になりました。とくに夜間・早朝等、館内及び機械式駐車場パレットが大変滑りやすくなります。機械式駐車場を利用されている方は、操作及び昇降に充分お気をつけください。

また、積雪の状況によっては、機械式駐車場の操作ができなくなる場合があります。寒波到来の予報が出ましたら、なるべく外出を控え、機械式駐車場を利用されている方は、余裕をもって行動することや、代替交通機関を想定するなどの準備を、各自で心がけていただくようお願いいたします。



ひとり暮らしや寝たきりなどで危険に対して適切かつ速やかに行動しづらい人はとくに、災害に見舞われたとき、大きな被害を受けてしまいがちです。

西日本豪雨の際、死者・行方不明の約7割が60歳以上の「シニア」と呼ばれる人達でした。大規模な災害が発生し、または発生するおそれがある場合に消防や警察等による支援体制（公助）が整うまで、一定期間を要する上、対応能力にも限界があります。

そのため、まずは、「自らの身は自ら（家族や同居人を含む）で守ること（自助）」、支援が必要な方に対しては、地域の助け合い（共助）が重要になります。

防災グッズを備える、避難経路を確認しておく、早め早めの避難をするなどのほか、普段からできることを考えてみます。

〇〇近所ネットワークを作る

高齢者の場合、災害時に孤立することが何より危険です。災害時の地域の助け合い（共助）は平常時の繋がり

延長にあります。そのため、

・日頃から地域の方と挨拶や声掛けを行うなど近所づきあいをする

・町内会や自治会に加入する

・地域の防災訓練や地域行事に参加する

・家族や同居人だけで避難することが難しい場合は、事前に近隣の友人や知人に支援をお願いしておく

などにより、普段から信頼できる近所ネットワークを作っておくことが大切です。

〇いざという時逃げることができるよう足腰を鍛えておく

健康的な身体があれば、いざという時に逃げ延びる確率が上がり、被災生活での衰弱も抑えることができます。

〇要介護者の家族を守る方策を事前に考える

日常でも介護現場は人手不足と言われています。災害時には、ヘルパーさん達も被災者となっている可能性も高く、ヘルパーさんが来なくなると困ることはなにかを考えておくことも必要です。

（防災士／フォレスト住区・佐藤斉子）



管理組合からのお知らせ

A. CITYの管理会社マネージャーとして6年間の長きに渡って業務を務められてきた、野村不動産パートナーズ(株)竹尾仁志氏が2023年1月1日付で異動になりました。

竹尾氏は本来の業務に真摯に取り組まれたのはもちろんのこと、管理組合理事長と共に居住者の様々な要望に直接足を運び、話を聞いたり、現場確認するなど、非常にフットワークの良い方でした。また自治会活動にも常に協力的で、防災訓練の他にも防災士ワークショップや独居高齢者朝食会などの行事にも参加するなど、業務外の活動にも参加し、住民のようにこの地域になじんだ存在でもありました。

急な異動とのことで残念ではありますが、これまでのA. CITYへのご尽力に感謝いたします。6年間おつかれさまでした。新しい赴任先でのご活躍をお祈りしています。

以下に竹尾氏からのメッセージを掲載いたします。



【竹尾仁志氏からのメッセージ】

2017年4月よりA. CITYを担当し、当初は戸数が多く、きちんとサポートできるか不安だらけでしたが、自身の失敗に居住者様から逆に助けていただくことも多々あり、今思えば充実した約6年でした。A. CITYでの経験は今後の糧となりました。ありがとうございました。